



SDGs未来都市 鹿児島県大崎町の取り組み

2023.02.08

「SDGs未来都市」 成果報告会

大崎町のリサイクルの取り組み

- H10 分別リサイクルを開始
- H13 試験的に生ごみの回収を開始
- H16 有機物（生ごみ・草木）の埋め立てが全面禁止
- R1 「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定

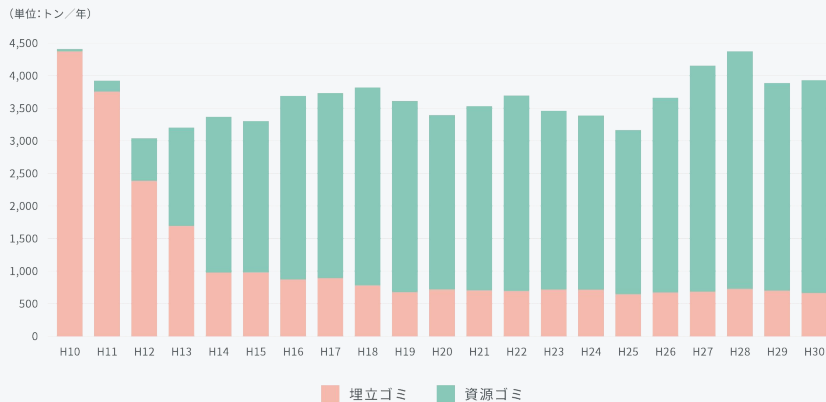
現在 27品目に分別、約85%の埋立ごみの削減を達成



大崎町のゴミ量の推移

H10年 4,382t → H30年 670t (約85%削減)

埋立処分場の
延命化



▶数値で見る大崎町のリサイクルの実績

リサイクル率

13回
日本一
(2006-2017, 2019)

リサイクル率

80%
以上

2018年
ジャパンSDGs
アワード受賞
(内閣官房長官賞)

生ゴミ・草木
の堆肥化

100%

最終処分場の残余年数 40年以上
(全国の最終処分場の残余年数は平均 21.6年)

※2018年度 環境省調べ

未来の大崎町ビジョンマップ



目指すこと

リサイクルの町から、
世界の未来をつくる町へ

第2期大崎町 SDGs 未来都市計画より (2022~2024)

リサイクルの価値を研修などの経済価値に転換させるとともに、地域の関係人口を増加させることにより、得られた価値を地域の教育への転換・循環させるなど、リサイクルを起点とした環境・経済・社会のサーキュレーションモデルを構築し、「世界の人口一万人地域で応用可能な循環型地域経営モデル確立」を目指す。

目標実現に向けた協議会の設立と 企業版ふるさと納税の活用

SDGs推進に向けて、大崎町と民間企業5社で協議会を設立。現在9名体制で事業の推進を実施。

一般社団法人
大崎町SDGs推進協議会

OSAKINI
PROJECT



内閣府主催令和3年度「地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)に係る大臣表彰」を受賞



SDGs未来都市実現に向けた目標

2021年度から3カ年で10億円の寄付獲得

2021年度実績 企業 **12** 社 寄付金 合計 **3億5千万** 円

大崎町と焼却自治体のごみ処理とGHG排出量の評価結果

国立環境研究所資源循環領域
河井紘輔氏との共同研究

GHG排出量/人が
38.5%削減と判明

大崎町全体で年間約 **500t**の削減効果

大崎町における資源循環・廃棄物処理システムの評価に関する研究がスタート 大崎町SDGs推進協議会と国立環境研究所が共同研究契約を2月3日(木)に締結

一般社団法人大崎町SDGs推進協議会

2022年2月3日 14時00分



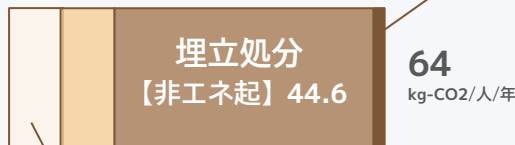
一般社団法人大崎町SDGs推進協議会（所在地：鹿児島県大崎町 代表理事 千歳 史郎、以下大崎町SDGs推進協議会）と国立研究開発法人国立環境研究所（所在地：茨城県つくば市 代表者 木本昌秀、以下国立環境研究所）は、「サーキュラー・エコノミー」を推進する「サーキュラー・ヴィレッジ・大崎町」にて、「大崎町における資源循環・廃棄物処理システムがもたらす多面的価値の評価に関する研究」を行うため、共同研究契約を2月3日（木）に締結いたしました。



左：大崎町SDGs推進協議会サーキュラー・ヴィレッジラボ所長 大岩 慎 / 右：代表理事 千歳 史郎 / 画面：国立環境研究所主任研究員 河井 紘輔

堆肥化【エネ起】8.2 埋立処分【エネ起】1.3

大崎町



大崎リサイクルシステムの導入
で脱炭素効果が見込める

堆肥化【非エネ起】9.5

埋立処分【エネ起】0.4

埋立処分【非エネ起】1.7

焼却自治体



河井先生の評価結果：

国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 河井紘輔氏 調べ

大崎リサイクルシステム展開の可能性について調査を行っている自治体



＼ その他、視察受け入れ・現地訪問・ディス
カッション等させて頂いた方々 /

北海道下川町

北海道名寄市

北海道二セコ町

北海道富良野市

岩手県岩手町

岐阜県郡上市

岡山県新見市

宮崎県綾町

他 多数

—実績—

・視察/研修受け入れ

・企業研修

2021年度

451名

2022年度

(2022年11月時点)

528名

TOYOTA、日立製作所 他多数